

平成28年度
事業報告書



学校法人 行吉学園

目次

建学の精神・教育綱領	1
はじめに	3
I 法人の概要	
1 法人の沿革	5
2 学校・学部・学科等の定員と現員（平成28年5月1日現在）	6
3 学生・園児数の推移（過去5年間）	7
4 教職員数の推移（過去5年間）	7
5 役員の概要（平成28年7月1日現在）	8
6 評議員の概要（平成28年7月1日現在）	8
7 理事会・評議員会の開催状況	9
8 施設等の状況（平成29年3月31日現在）	10
9 法人組織構成図（平成28年4月1日現在）	11
II 事業の概要	
神戸女子大学・神戸女子短期大学	
■教育活動	12
1 卒業者・修了者数の状況	8 障がい者学修支援
2 国家試験の受験・合格状況	9 全学共通教育
3 授業評価の取り組み	10 単位互換制度の推進
4 シラバス作成の実績	11 「ポーアイ教養科目」
5 成績評価の見直し	12 ライブラリー・コモنزの活用
6 教育課程の見直し	13 国際交流事業の推進
7 CAP制の運用	14 図書館の利用状況
■研究活動	17
1 研究活動の状況	4 その他外部資金の採択状況
2 科学研究費助成事業の採択	5 古典芸能研究センター
3 産学連携活動の取り組み	
■地域連携活動・社会貢献活動	18
1 社会貢献の概要	5 ボランティア活動
2 須磨区との地域連携	6 公開市民講座の開催
3 中央区との地域連携	7 オープンカレッジの開講
4 ポートアイランド4大学の連携	
■学生支援活動	20
1 奨学金の採択状況	4 健康推進への取り組み
2 学生表彰の状況	5 教職支援
3 学生寮等の利用状況	6 就職支援
■自己点検・評価への取り組み	24
■学生募集	25
1 平成29年度入試の状況	3 受験生確保の方策
2 学生募集の状況	
■施設整備	26
1 施設の充実	3 防災への取り組み
2 情報処理機器の整備等	

目次

■管理運営	28
1 常任理事会の開催状況	4 教職員表彰の実施
2 入学定員の変更	5 収益的事業の展開
3 学園広報活動の展開	6 教育後援会との交流強化
神戸女子大学附属高倉台幼稚園	29
1 園児数	3 地域とのかかわり
2 子育て支援	4 施設の充実
Ⅲ 財務の概要	30
※省略（「平成28年度 財務状況」参照）	
参考資料	
□神戸女子大学卒業者の進路状況	38
□神戸女子短期大学卒業者の進路状況	39

— 学校法人行吉学園 建学の精神・教育綱領 —

建学の精神

本学園の教育は、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成するにある。そのためには、人格の完成をめざし、平和的な国家および社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた、心身ともに健康な国民の育成に、力をつくすにある。

教育綱領

- 学術の研究を通して、人生社会に対する広い視野と深い洞察とを身につけ、識見高く、心情豊かな女性を育てる。
- 個性の伸長をはかり、社会に貢献しうる人材を育てる。
- 勤労を愛し、義務と責任を重んじ、自律的に行動する態度を養う。
- 宗教的情操を培い、謙虚にして愛情深く、よく苦難に耐え、常に信念に生きる女性を育てる。
- 明朗にして礼節あり、健康にして柔軟な心身の持ち主となり、よく世代を導きうる女性を育てる。

はじめに

本学園では、建学の精神、教育綱領に基づき「**自立心・対話力・創造性**」を培う教育を目指して、平成 28 年度は「**社会的評価引上げに向けた施策への重点的取り組み**」、「**学びの環境の充実とキャリア保障力の向上**」、「**持続的発展に向けた財政基盤の確立**」を中長期の方針と定めたうえで、今後のさらなる 18 歳人口の減少期に柔軟かつ的確に対応するため、経営体制をより一層強化していくこととし、様々な施策を推進してまいりました。

「**社会的評価引上げに向けた施策への重点的取り組み**」については、2 年目を迎えた看護学部を充実するとともに、健康福祉学部を基礎とし、栄養学を中心に捉え、運動と福祉を融合させた「健康」をキーワードとして横断的研究を行う「**健康栄養学研究科を設置**」しました。「健康」に関わる研究者及び高度な専門的職業人の育成等により、本学園が担う社会的役割がより重要性を増していくものと考えております。また、学生定員の検証結果を踏まえ、大学及び短期大学の入学定員の変更を行いました。

「**学びの環境の充実**」については、須磨キャンパス同様に PI キャンパス図書館にも設置されたラーニング・コモンズで、様々な学習支援プログラムを実施し、学生と教職員がともに学び合い・教え合う活動を展開しています。また、大学に地域連携推進センターを設置し、地域連携の組織的・総合的な推進体制を強化するとともに、学生の取り組みを支援しました。さらに PC 教室の拡充、ネットワークセキュリティ機器の更新、空調設備の改修など、学生の教育・生活環境の改善にも引き続き努力しました。

「**キャリア保障力の向上**」については、教職員が一体となった支援体制を強化するとともに、教員免許をはじめ、各種資格の取得や就職先開拓に積極的に取り組み、就職率、進路決定率はいずれも昨年度を上回る結果となりました。雇用環境面の改善が続くと見込まれるものの、今後の社会情勢の変動等も考慮し、引き続き積極的な支援に取り組んでまいります。

学園運営を左右することとなる「**持続的発展に向けた財政基盤の確立**」については、「**安定的財政基盤の確保**」を平成 28 年度の目標と位置づけ、単年度ベースで収支均衡の体質を維持することを基本姿勢に収支改善に向けた取り組みを展開してまいりました。結果的には、収入面で、入学金の値下げによる学生生徒等納付金収入の減少、退職者減による退職金財団交付金の減少、受取利息の減少、設備関係補助金の皆減等により、事業活動収入は 5,681 百万円と前年比 203 百万円の減少となる一方、支出面で看護学部の教員編成先行等による事業活動支出は 6,228 百万円と前年比 107 百万円の増加となりました。看護学部開設 2 年度目であり、経費負担が先行しますが、年次進行により収支状況は改善される見込みであり、さらに十分な運用資金を維持した上での先行投資であることから、比較的安定した財政状況と考えております。

このような状況下において、学園全体で学生の教育・生活環境の改善に取り組んでまいりましたが、創立 50 周年を迎えた大学においては、大学基準協会による第 2 期大学評価（認証評価）を受審し、「**適合**」の認定を受けるとともに、短期大学においても短期大学基準協会による第三者評価を受審し、「**適格**」の認定を受けました。また、多様な教育ニーズに応えられる女子総合学園としての優位性を高めるとともに、大学、短期大学を一体的に運営していくために、学長の新たな選考制度の導入等により、大学ガバナンスの強化を進め、学長リーダーシップの確立を図りました。

本学園では、引き続き教育研究の質的向上と財政基盤の安定による健全な運営に努め、看護学部や健康栄養学研究科の学年進行等によりさらに高まる総合力を活用して、地域・社会から求められる大学・短期大学をめざして魅力ある女子教育を展開してまいります。

平成 29 年 5 月

学校法人行吉学園
理事長 行 吉 誠 之

I 法人の概要

1 法人の沿革

昭和 15 年 11 月	神戸新装女学院を設立
〃 21 年 9 月	財団法人神戸新装女学院に組織変更
〃 25 年 4 月	神戸女子短期大学服装科を開設
〃 26 年 2 月	学校法人行吉学園に組織を変更
〃 41 年 4 月	神戸女子大学家政学部を開設
〃 44 年 4 月	神戸女子大学文学部を開設
〃 48 年 4 月	神戸女子大学附属高倉台幼稚園を開設
〃 59 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻を開設
〃 61 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本文学専攻、英文学専攻、日本史学専攻を開設
〃 62 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科教育学専攻を開設
平成元年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学を開設
〃	神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻及び文学研究科教育学専攻に博士課程を開設
〃 3 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本史学専攻に博士課程を開設
〃 4 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科英文学専攻に博士課程を開設
〃	法人本部及び神戸女子短期大学を移転
〃 5 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本文学専攻に博士課程を開設
〃 7 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科生活造形学専攻を開設
〃 8 年 4 月	神戸女子大学文学部に社会福祉学科を開設
〃	神戸女子短期大学に総合生活学科・食物栄養学科を開設
〃	神戸女子大学瀬戸短期大学に生活専攻・食物栄養専攻を設置
〃	神戸女子短期大学初等教育科を初等教育学科に名称変更
〃	神戸新装学院を廃止
〃 9 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科生活造形学専攻に博士課程を開設
〃 10 年 6 月	神戸女子短期大学服装科・家政科を廃止
〃 11 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学英語科を文化コミュニケーション科に名称変更
〃 13 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学文化コミュニケーション科の募集停止
〃 14 年 7 月	神戸女子大学瀬戸短期大学文化コミュニケーション科の廃止認可
〃 15 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学生活科の募集停止
〃	神戸女子大学学校教育学専攻科の設置
〃 16 年 5 月	神戸女子大学瀬戸短期大学の廃止認可
〃 18 年 4 月	神戸女子大学健康福祉学部健康福祉学科、文学部日本語日本文学科、文学部英語英米文学科、文学部神戸国際教養学科を設置
〃	神戸女子大学文学部文学科、文学部社会福祉学科の募集停止
〃	神戸女子短期大学専攻科保育専攻を設置
〃 21 年 4 月	神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科を設置、同学部健康福祉学科を社会福祉学科に、神戸女子短期大学初等教育学科を幼児教育学科に名称変更
〃 23 年 4 月	社会福祉法人神女きずな会を設立し、神女中山手保育園を開設
〃 27 年 4 月	神戸女子大学看護学部看護学科を開設
〃 28 年 4 月	神戸女子大学大学院健康栄養学研究科健康栄養学専攻を開設

2 学校・学部・学科等の定員と現員 (平成 28 年 5 月 1 日現在)

(単位：名)

区 分	学部・学科等		入学定員	収容定員	現 員	摘 要
神戸女子大学 大学院 (昭和 59 年 4 月設置)	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	前期	8	16	8
			後期	2	6	3
		生活造形学専攻	前期	6	12	5
			後期	2	6	3
	小 計			18	40	19
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	前期	4	8	1
			後期	2	6	0
		英 文 学 専 攻	前期	4	8	2
			後期	2	6	1
		日本史学専攻	前期	4	8	1
			後期	2	6	1
		教育学専攻	前期	4	8	1
			後期	2	6	3
	小 計			24	56	10
健康栄養学研究科 (修士課程)	健康栄養学専攻		4	4	4	平成 28 年 4 月開設
合 計			46	100	33	
神戸女子大学 (昭和 41 年 4 月設置)	家政学部	家 政 学 科	80	320	365	
		管理栄養士養成課程	160	600	611	3 年次編入定員含む。
		小 計	240	920	976	
	文 学 部	日本語日本文学科	60	240	232	
		英語英米文学科	60	240	229	
		神戸国際教養学科	40	160	183	
		史 学 科	60	240	236	
		教 育 学 科	165	660	694	
		小 計	385	1,540	1,574	
	健康福祉学部	社会福祉学科	80	320	283	
		健康スポーツ栄養学科	60	240	265	
		小 計	140	560	548	
	看護学部	看 護 学 科	80	160	178	平成 27 年 4 月開設
	学校教育学専攻科			15	15	1
合 計			860	3,115	3,277	
神戸女子 短期大学 (昭和 25 年 4 月設置)	幼 児 教 育 学 科		100	200	207	
	総 合 生 活 学 科		120	240	223	
	食 物 栄 養 学 科		140	280	232	
	合 計		360	720	662	
神戸女子大学附属高倉台幼稚園 (昭和 48 年 4 月設置)			100	200	196	
総 計			1,366	4,135	4,168	

*幼稚園の入学定員欄は募集可能人員を示す。

3 学生・園児数の推移 (平成 28 年 5 月 1 日現在) (単位：名)

区 分		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
大 学 院	家政学研究科	博士前期	16	26	30	17	13
		博士後期	10	10	8	7	6
	文学研究科	博士前期	12	11	14	8	5
		博士後期	6	5	6	4	5
	健康栄養学研究科	修士課程	—	—	—	—	4
	合 計	博士前期	28	37	44	25	22(修士含む)
博士後期		16	15	14	11	11	
大 学	家 政 学 部	1,024	1,041	1,022	980	976	
	文 学 部	1,811	1,795	1,756	1,662	1,574	
	健 康 福 祉 学 部	557	586	589	584	548	
	看 護 学 部	—	—	—	86	178	
	学校教育学専攻科	2	4	2	3	1	
	合 計	3,394	3,426	3,369	3,315	3,277	
短期大学	幼 児 教 育 学 科	238	240	214	209	207	
	総 合 生 活 学 科	215	225	232	230	223	
	食 物 栄 養 学 科	316	301	267	253	232	
	合 計	769	766	713	692	662	
高 倉 台 幼 稚 園		252	264	256	213	196	

4 教職員数の推移 (平成 28 年 5 月 1 日現在) (単位：名)

区 分		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
専任教員	神 戸 女 子 大 学	151	147	147	169	178
	神 戸 女 子 短 期 大 学	43	43	43	41	39
	高 倉 台 幼 稚 園	10	10	10	7	7
	計	204	200	200	217	224
専任職員	法 人 本 部	9	9	9	9	9
	神 戸 女 子 大 学	67	67	68	66	69
	神 戸 女 子 短 期 大 学	20	19	17	16	14
	高 倉 台 幼 稚 園	3	3	3	2	3
	計	99	98	97	93	95
合 計		303	298	297	310	319

* (平均年齢) 教員 52.3 才・職員 48.0 才、(平均勤続) 教員 13.1 年、職員 17.2 年

5 役員の概要 (平成 28 年 7 月 1 日現在)

(1) 理事 ※1

[定数：8 名 任期：4 年]

区分	氏名	常勤・非常勤	選任区分	摘要
理事長	行吉 誠之	常勤	学識経験者	昭和 54 年 6 月 理事就任 平成 18 年 4 月 理事長就任
副理事長	行吉 宜孝	常勤	評議員	平成 22 年 6 月 理事就任 平成 27 年 6 月 副理事長就任
理事	中島 實	常勤	神戸女子大学長	平成 25 年 4 月 理事就任
	今井 修平	常勤	評議員	平成 18 年 4 月 理事就任
	長瀬 荘一	常勤		平成 18 年 6 月 理事就任
	福岡 真也	常勤		平成 26 年 6 月 理事就任
	根岸 成直	非常勤	学識経験者	平成 18 年 6 月 理事就任
	加藤 隆久	非常勤		平成 11 年 1 月 理事就任

(2) 監事 ※2

[定数：3 名 任期：4 年]

区分	氏名	常勤・非常勤	摘要
監事	芳木 伸吉	非常勤	平成 18 年 6 月就任
	亀井 尚也	非常勤	平成 23 年 5 月就任
	横田 成樹	非常勤	平成 26 年 6 月就任

※1 選任区分は寄附行為第 6 条第 1 号～第 3 号において規定

※2 寄附行為第 5 条において規定

6 評議員の概要 (平成 28 年 7 月 1 日現在) ※3

[定数：20 名 任期：4 年]

氏名	主な現職等	選任区分	摘要
平田 耕造	神戸女子大学副学長	法人の職員	平成 18 年 4 月就任
長瀬 荘一	神戸女子短期大学長		平成 14 年 6 月就任
行吉 宜孝	行吉学園事務職員		平成 14 年 6 月就任
福岡 真也	行吉学園事務職員		平成 26 年 6 月就任
廣畑 俊介	行吉学園事務職員		平成 18 年 9 月就任
瀬瀬 好子	NPO 法人京田辺シュタイナー学校専科教員	卒業生	平成 22 年 6 月就任
藤井 昭子			平成 11 年 5 月就任
船原 昌子			平成 25 年 5 月就任
糸井 亜弥	神戸女子大学助教		平成 18 年 6 月就任
吉田千佳子			平成 18 年 6 月就任
林 利恵子	神戸女子大学准教授		昭和 55 年 7 月就任
春木 和子			平成 16 年 7 月就任
十一 玲子	神戸女子大学准教授		平成 14 年 6 月就任
吉田 幸世	神戸女子大学技術職員		平成 18 年 6 月就任
今井 修平	神戸女子大学教授		学識経験者
森野 茂樹		平成 18 年 6 月就任	
小川清四郎	弘星テクノ株式会社代表取締役社長	平成 18 年 6 月就任	
小林美佐子	神戸女子大学教授兼高倉台幼稚園園長	平成 19 年 5 月就任	
浅木森和夫	神戸女子短期大学教授	平成 22 年 6 月就任	
岡 浩彰	宗教法人要玄寺住職	教育後援会	平成 28 年 6 月就任

※3 選任区分は寄附行為第 22 条第 1 号～第 4 号において規定

7 理事会・評議員会の開催状況（平成 28 年度）

(1) 理事会

回数	開催 年月日	主 な 協 議 事 項	出席状況 (定数 8 名)		
			出席	欠席	計
1	5 月 25 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年度事業報告について 平成 27 年度決算について 	7	1	8
2	5 月 25 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> 学長任用規程の一部改正について 平成 28 年度賞与支給率について 平成 28 年度入学試験の結果及び平成 29 年度入学試験等の概要について（報告） 	7	1	8
3	9 月 28 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> 次期学長に求める職務及び学長像の決定について (神戸女子大学学長任用規程及び神戸女子短期大学学長任用規程に定める) 神戸女子大学学長候補者選出規程の制定について 神戸女子短期大学学長候補者選出規程の制定について 	8	0	8
4	12 月 2 日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> 神戸女子大学学長及び神戸女子短期大学学長の選考について 選考した学長の選考理由、略歴及び所信に関する常任理事会の公表文案の承認について 土石流対策のための砂防堰堤設置工事への神戸女子大学用地（裏山）の提供について（報告） 平成 29 年度推薦入試等の状況について（報告） 	8	0	8
5	3 月 24 日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度補正予算について 平成 29 年度事業計画について 平成 29 年度予算について 学園諸規程の一部改正について <ol style="list-style-type: none"> 学則の一部改正について 事務組織規程の一部改正について 行吉学園学生寮規程の一部改正について 教職員の異動（退職者・採用予定者）について（報告） 平成 29 年度入学試験の結果について（報告） 	8	0	8

(2) 評議員会

回数	開催 年月日	主 な 協 議 事 項	出席状況 (定数 20 名)		
			出席	欠席	計
1	5 月 25 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> 学長任用規程の一部改正について 平成 28 年度賞与支給率について 平成 27 年度事業報告について（報告） 平成 27 年度決算について（報告） 平成 28 年度入学試験の結果及び平成 29 年度入学試験等の概要について（報告） 	15	5	20
2	12 月 2 日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> 神戸女子大学学長及び神戸女子短期大学学長の選任について（報告） 土石流対策のための砂防堰堤設置工事への神戸女子大学用地（裏山）の提供について（報告） 平成 29 年度推薦入試等の状況について（報告） 	17	3	20
3	3 月 24 日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度補正予算について 平成 29 年度事業計画について 平成 29 年度予算について 学園諸規程の一部改正について <ol style="list-style-type: none"> 学則の一部改正について 事務組織規程の一部改正について 行吉学園学生寮規程の一部改正について 教職員の異動（退職者・採用予定者）について（報告） 平成 29 年度入学試験の結果について（報告） 	19	1	20

8 施設等の状況（平成 29 年 3 月 31 日現在）

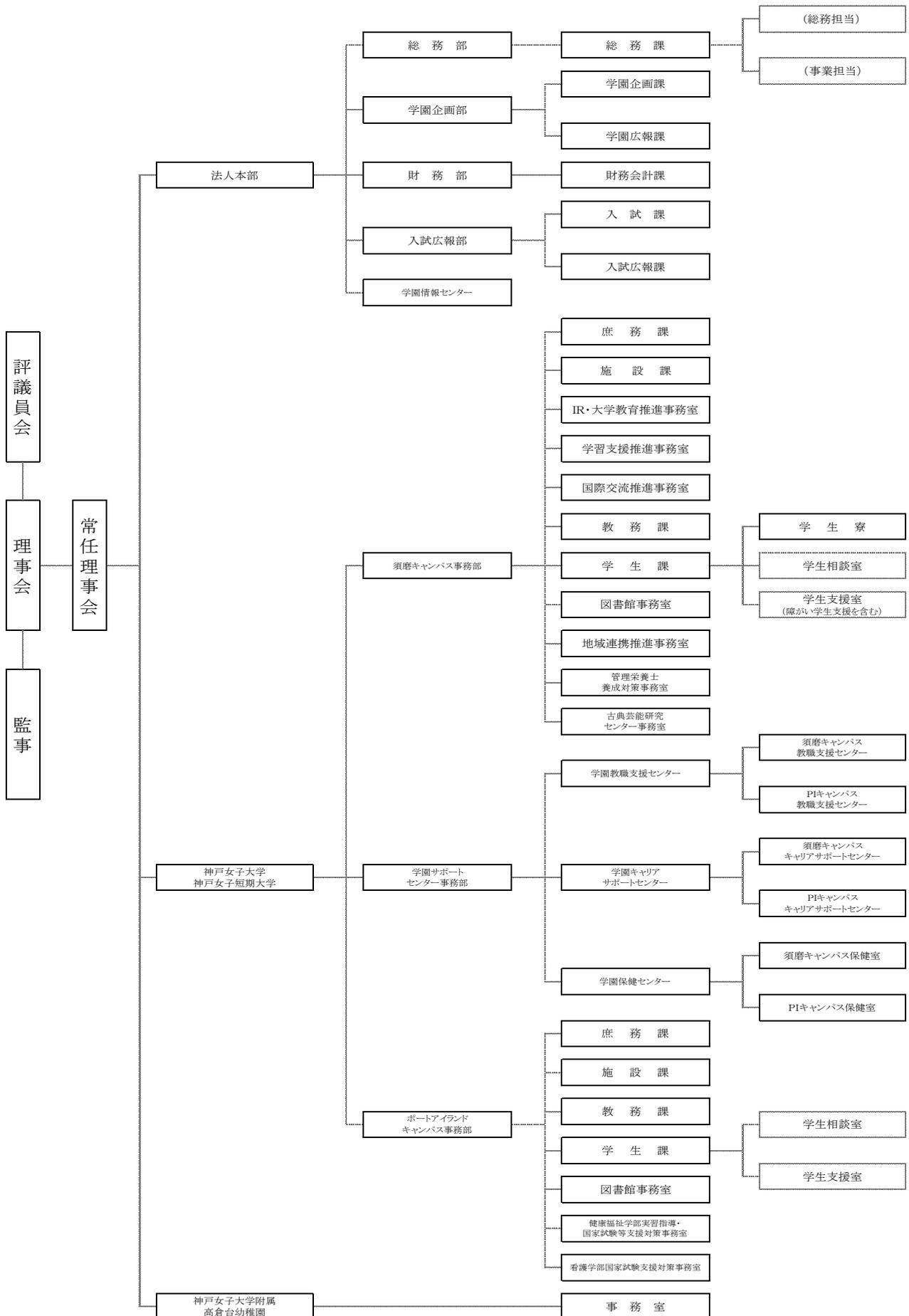
(1) 土 地

区 分	所在地	面積 (㎡)	摘 要
須磨キャンパス	兵庫県神戸市須磨区	145,623.61	神戸女子大学専用
P I キャンパス	兵庫県神戸市中央区	24,524.84	神戸女子短期大学専用
三宮キャンパス	兵庫県神戸市中央区	4,931.00	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
高倉台幼稚園	兵庫県神戸市須磨区	2,566.58	高倉台幼稚園専用
小 計		177,646.03	
寄宿舍(行幸寮・天神寮)	兵庫県神戸市須磨区	3,128.13	神戸女子大学専用
セミナーハウス	米国ハワイ州ホノルル	683.65	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
職員宿舎	兵庫県神戸市須磨区	382.34	
合 計		181,840.15	

(2) 建 物

区 分	面積 (㎡)	摘 要	
須磨キャンパス (兵庫県神戸市須磨区)	校 舎	26,631.74	神戸女子大学専用
	体 育 館	3,460.50	
	図 書 館	6,081.45	
	実 験 室	57.60	
	守 衛 室	68.76	
	ク ラ ブ 室	986.85	
	食 堂	2,115.98	
	会 館	246.80	
小 計	39,649.68		
P I キャンパス (兵庫県神戸市中央区)	校 舎	10,855.36	神戸女子大学専用
		23,954.49	神戸女子短期大学専用
	守 衛 室	47.93	
	体 育 館	2,334.04	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
小 計	37,191.82		
三宮キャンパス (兵庫県神戸市中央区)	校舎(体育館を含む)	7,085.46	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
高倉台幼稚園 (兵庫県神戸市須磨区)	校 舎	1,398.61	高倉台幼稚園専用
寄宿舍(行幸寮・天神寮) (兵庫県神戸市須磨区)		4,412.56	神戸女子大学専用
セミナーハウス (米国ハワイ州ホノルル)		1,074.67	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
職員宿舎 (兵庫県神戸市須磨区)		436.64	
合 計	91,249.44		

9 法人組織構成図（平成 28 年 4 月 1 日現在）



II 事業の概要

II-1 神戸女子大学・神戸女子短期大学

■教育活動

1 卒業生・修了者数の状況

平成 28 年度（9 月卒業を含む）に所定の課程を修了し、卒業・修了した学生は以下のとおりである。

（単位：名）

区 分	学部・学科等		前 期	後 期	計
神戸女子大学 大学院	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	2	1	3
		生活造形学専攻	3	0	3
		小 計	5	1	6
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	1	0	1
		英 文 学 専 攻	0	0	0
		日本史学専攻	1	0	1
		教 育 学 専 攻	0	0	0
		小 計	2	0	2
	合 計		7	1	8
	神戸女子大学	文 学 部	日本語日本文学科	67	
英語英米文学科			59		
神戸国際教養学科			50		
史 学 科			66		
教 育 学 科			183		
小 計			425		
健康福祉学部		社会福祉学科	76		
		健康スポーツ栄養学科	75		
		小 計	151		
家政学部		家 政 学 科	96		
		管理栄養士養成課程	150		
		小 計	246		
学校教育学専攻科		0			
合 計		822			
神戸女子短期大学		総合生活学科		122	
	食物栄養学科		134		
	幼児教育学科		112		
	合 計		368		

2 国家試験の受験・合格状況

平成 28 年度における国家試験の受験合格状況は、以下のとおりで、いずれも高い合格率となった。

試験区分	年度	受験者	合格者	合格率	全国平均合格率
管 理 栄 養 士	平成 28 年度	149 名	138 名	92.6%	(54.6%)
	平成 27 年度	152 名	139 名	91.4%	(44.7%)
	平成 26 年度	156 名	150 名	96.2%	(55.7%)
社 会 福 祉 士	平成 28 年度	57 名	32 名	56.1%	(25.8%)
	平成 27 年度	47 名	29 名	61.7%	(26.2%)
	平成 26 年度	51 名	25 名	49.0%	(27.0%)
精 神 保 健 福 祉 士	平成 28 年度	6 名	5 名	83.3%	(62.0%)
	平成 27 年度	5 名	4 名	80.0%	(61.6%)
	平成 26 年度	10 名	9 名	90.0%	(61.3%)

3 授業評価の取り組み

神戸女子大学 FD・SD 委員会及び神戸女子短期大学 FD 委員会が、以下の方式により実施した。

(1) 授業アンケート

大学及び短期大学において、学生の学修状況、満足度、理解度及び施設・設備に関する要望を把握するため、原則として全開講科目を対象に匿名性を担保した web 入力方式により前・後期に各 1 回実施している。集計結果は、学内ポータルサイトよりフィードバックされている。

(2) 授業公開

大学においては、教員相互のピアサポートによる授業技術の向上を目的として、全開講科目を対象に実施しており、今年度は、アクティブラーニングをテーマとして実施した。短期大学においては、授業公開内容等について各学科で検討のうえ、専任教員全員が授業を公開した。

(3) 自己点検報告書

大学においては、「授業アンケート」の結果も参考に教員が自らの授業を省察する目的で作成し、FD・SD 委員会に提出することを義務付けている。また、学生に対する教育の質保証に対する取り組みの可視化を目指し、自由記載欄の内容を集計・整理したうえ教授会に提出して教員間で共有した。

短期大学においては、授業の達成度、学生の学修状況について、授業担当教員が自ら点検し、授業改善に繋げることを目的としており、点検結果について教授会で報告した。学生による授業アンケート、授業自己点検、授業公開を組み合わせた授業評価は、学生、教員間、教員本人による総合的な評価であり、大学、短期大学ともに授業の改善に繋げている。

また、年度末には、授業改善の具体的方策に関する知

識を深めることを目的に「ICT 環境を学びなおす」というテーマで研修会を実施するなど、学内の ICT 環境について理解を深めた。

4 シラバス作成の実績

大学においては、文部科学省、厚生労働省より指定された授業内容等に沿って作成しており、教務委員による点検を経て、学内ポータルサイトより学生が閲覧可能であり、ホームページで公開した。

短期大学においては、平成 27 年度より冊子印刷を廃止し、ホームページに掲載することとし、授業科目のシラバス検索機能を整備している。シラバス作成にあたっては、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを基本に『シラバスガイドライン』を作成し、全科目について教務委員会において組織的な点検を行い、教育内容の明確化及び質的向上を図った。また、資格関連科目の内容について、各学科及び関係委員会における組織的点検を実施した。

5 成績評価の見直し

大学においては、教育の質保証を基に教育課程の体系化の一環として、成績評価基準の一つである GPA (Grade Point Average) 制度を平成 26 年度入学生より導入し運用している。また、平成 28 年度より、GPA 値 1.5 未満の学生について学科に情報提供を行い、学修指導等に活用している。短期大学においては、教授会へ学期毎に、学科別の GPA 分布を報告し、成績優秀者の表彰や学修支援に活用している。

6 教育課程の見直し

教育課程の見直しとして、各学科の授業科目とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを見直し、整合性について検討した。また、授業科目の順序性を

明確にするためカリキュラムマップを作成し、ホームページで公開した。

7 CAP 制の運用

短期大学においては、短期大学設置基準を遵守した履修制度に関する改善策として、平成 28 年度より CAP 制（履修登録可能な単位数の上限制度）を導入し運用している。

8 障がい者学修支援

大学において、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成 28 年 4 月 1 日施行）」の取り組みとして、障がい者の学修支援体制について検討し、視覚障がい者の学修支援機器（音声変換ソフト）を整備した。

9 全学共通教育

主な取り組みは以下のとおりである。

- (1) 看護学部における全学共通教養科目の円滑な実施
- (2) 「基礎」及び「キャリア関連科目」の再編、拡充
- (3) 日本語教育の充実

日本語教育用パンフレット（教員用、学生用）を全ての入学者及び教員に配布した。

- (4) e-learning の再検討及びホームページの刷新
e-learning については、新しいコンテンツの導入を決定し、入学後も利用できる体制を整えた。

10 単位互換制度の推進

- (1) ポートアイランド 4 大学連携単位互換制度
42 科目を開設し、学問領域も大幅に拡大しており、4 大学間における教育交流の契機となっている。
- (2) 大学コンソーシアムひょうご神戸単位互換事業
「大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学間

の単位互換事業に関する包括協定書」に基づき、平成 24 年度より単位互換事業に参加している。平成 27 年度より、単位互換事業の開放科目を集中科目に限定する方針となったため、本学から提供する科目はなかった。

(3) 教員養成高度化システムモデルの構築・発信

単位互換の推進県内 6 大学との連携事業として、平成 28 年度は本学より「日本語学特論Ⅱ a」及び「人間工学特論」の 2 科目を提供し、兵庫教育大学の学生 1 名が遠隔講義システムを利用して「人間工学特論」を受講した。

11 「ポーアイ教養科目」

平成 20 年度に文部科学省より採択された「戦略的 大学連携支援事業」における取り組みの一環として、「ポーアイ教養科目」10 科目を立ち上げ、平成 22 年度より開設しており、正規科目に位置付けられている。平成 28 年度は 4 大学で延べ 104 名の学生（うち神戸女子大学 3 名、神戸女子短期大学 17 名）が履修した。

12 ライブラリー・コモنزの活用

須磨キャンパスでは、ライブラリー・コモنزの設置から 3 年が経過し、学生に安定した学習支援プログラムを提供している。また、PI キャンパスにおいても、図書館 3 階の一部にグループ学習コーナーを開設し活動しており、両キャンパスの平成 28 年度活動内容は以下のとおりである。

さらに、学習支援推進委員会において、平成 26～28 年度までの両キャンパスにおける活動内容をまとめた「ライブラリー・コモنز活動報告書」を発行した（平成 29 年 3 月刊行）。

【学習支援センター】

(参加延人数)

須磨キャンパス			PI キャンパス		
基礎科目 ミニ講義	理科	16 回 (37 名)	基礎科目 グループ学習	数学	31 回 (0 名)
	数学	40 回 (152 名)		化学	6 回 (57 名)
	国語	42 回 (275 名)		国語	28 回 (0 名)
基礎科目 個別相談	理科	週 2 回 (31 名)	基礎科目 個別相談	数学	週 2 回 (24 名)
	数学	週 2 回 (87 名)		化学	週 2 回 (29 名)
	国語	週 2 回 (123 名)		国語	週 2 回 (39 名)
その他ミニ講義	ストレス	4 回 (13 名)			
その他活動	グループワーク	6 回			
	就活座談会	2 回			
	百人一首大会	1 回			

【ランゲージ・カフェ】

【その他】

外国人教員による海外文化に触れるイベント	1 回	新任等教員 manaba 説明会 (PI キャンパス)	1 回
留学生学修成果発表会	2 回	新任等教員 manaba 説明会 (須磨キャンパス)	1 回
留学生歓迎会・送別会	3 回	大学院生対象 manaba 説明会 (須磨キャンパス)	1 回
海外大学職員による外国語レッスン・講演会	10 回	新任等教員 manaba 説明会 (PI キャンパス)	1 回
海外大学生による英語レッスン・大学紹介	4 回	新任等教員 manaba 説明会 (須磨キャンパス)	1 回

13 国際交流事業の推進

(1) 海外研修等の実施状況

■華南師範大学（中国）

交換留学生として、1 名を本学文学研究科日本文学専攻で 1 年間受入れた。また、教員・研究者間の交流と共同研究の推進を目的とした「日本研究国際交流センター」に関する合意書が結ばれた。

■チェンマイ大学（タイ）

平成 23 年に締結した大学間協定（5 年間）が終了するため、新たに協定を締結した。

■ハワイ大学マノア校（アメリカ）

友好交流 35 周年と英語英米文学科のハワイ大学への Semester 留学開始から 10 周年を迎え、記念セレモニーを開催した。

■オックスブリッジ・イングリッシュ・サマースクール

ケンブリッジ大学とオックスフォード大学の学生が組織する Oxbridge Summer Campus Abroad の学生を迎えて実施しているサマースクールが第 10 回を迎え、20 名の学生が参加し、交流を深めた。授業、文化交流、意見交換等はすべて英語で行われ、語学力を向上させる貴重な機会となっている。

■海外における学生の安否確認に向けた取り組み

海外で不測の事態が発生した場合、海外派遣学生の情報を迅速に把握する手段の 1 つとして、manaba を利用した「海外渡航届」の運用を試験的に開始した。

(単位:名)

派遣先大学・機関等	研修・留学名	派遣学生数		
		大学	短大	計
華南師範大学	交換留学 ※2	2	-	2
ハワイ大学	Semester プログラム(前期) ※1	12	-	12
	Semester プログラム(後期) ※1	14	-	14
	英語研修(夏期)	14	0	14
	英語研修(春期)	8	3	11
ケント大学	英語研修	13	-	13
	Junior Year Abroad English Plus	1	-	1
	日本語教授補助インターンシップ	1	-	1
フライブルク大学	ドイツ語研修	9	-	9
ピッツァー大学	サマープログラム ※1	12	-	12
オークランド工科大学	短期日本語教育研修 ※3	2	-	2
カリフォルニア州立大学 ポリテクニク大学ポモナ校	英語学習&サービス・ラーニングプログラム ※1	6	-	6
カセサート大学	国際ビジネス・タイ文化学習サービス・ラーニングプログラム	2	-	2
チェンマイ大学	英語・タイ文化学習サービス・ラーニングプログラム ※1	7	-	7
高麗大学	韓国語研修	6	-	6
静宜大学	中国語研修	2	-	2
クアキニ・ヘルスシステム	病院実習	2	-	2
ウダヤナ大学	インドネシア・バリ州栄養研修プログラム(国際健康福祉プログラム)	3	-	3
ホーエンフロイデンシュタット病院	ドイツ臨床栄養研修プログラム(国際健康福祉プログラムⅡ)	2	-	2
ソースフューン(介護福祉養成学校)	デンマーク社会福祉研修旅行	9	-	9
合計		133	3	136

※1 日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度対象 ※2 HUMAP 留学生交流推進制度対象

※3 国際交流基金奨学金対象

(2) 教員の海外留学制度の活用

神戸女子大学文学部神戸国際教養学科准教授 1 名が海外留学制度を利用してタイ・チェンマイ大学に留学し、「ASEAN 経済統合に伴う日系企業への影響」をテーマとした研究活動に従事した。

【短期研修】

英語英米文学科：ケント大学学生より 1 名
健康福祉学部：ウダヤナ大学医学部より 2 名

(3) 海外からの留学生・研究者受入

【留学生】

日本語日本文学科：華南師範大学より 1 名
ウダヤナ大学より 1 名
大学院文学研究科：華南師範大学交換留学生 1 名

【研究者】

ウダヤナ大学医学部 講師／健康スポーツ栄養学科
社団法人老人生活科学研究所研究員／社会福祉学科
ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 HORN 研究者交流事業

14 図書館の利用状況

(1) 図書館利用サービス

【須磨キャンパス】

区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
開 館 日 数	267 日	272 日	269 日
入 館 者 数	132,132 名	124,725 名	115,104 名
貸 出 冊 数	23,898 冊	23,800 冊	25,075 冊
貸出冊数 (1 名あたり)	7.5 冊	8.5 冊	9.2 冊
AV コーナー利用者数	2,098 名	2,296 名	2,267 名

【PI キャンパス】

区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
開 館 日 数	191 日*	224 日	249 日
入 館 者 数	35,010 名	35,198 名	35,971 名
貸 出 冊 数	7,214 冊	6,702 冊**	7,639 冊
貸出冊数 (1 名あたり)	5.6 冊	4.9 冊	5.5 冊
AV コーナー利用者数	192 名	138 名	91 名

*「平成 26 年度私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金」採択に伴う改装工事のため開館日数減。

**当該通常貸出冊数の他 3 階増設年より館内利用冊数あり。平成 28 年度は+3,819 冊

(2) 資料受入状況

【須磨・PI キャンパス】

区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
蔵 書 冊 数	280,529 冊	283,956 冊	288,248 冊
図 書 購 入 冊 数	4,196 冊	2,903 冊	3,060 冊
図 書 年 間 受 入 冊 数	9,281 冊	3,752 冊	4,525 冊
視 聴 覚 資 料 年 間 受 入 数	585 (400 タイトル)	277 件 (114 タイトル)	278 件 (57 タイトル)
雑 誌 所 蔵 種 数	2,921 種	2,930 種	2,930 種
雑 誌 年 間 受 入 種 数	159 種	219 種	219 種

注) 須磨キャンパス図書館およびポートアイランドキャンパス図書館 (大学) の合算

注) 除籍図書：平成 26 年度 (119 冊)、平成 27 年度 (325 冊)、平成 28 年度 (233 冊)

注) 図書年間受入冊数：雑誌・視聴覚資料を除く

(3) 地域開放利用状況

【須磨キャンパス】

区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
利用者数	66 名	140 名	211 名
貸出冊数	63 冊	55 冊	67 冊

注) 図書館利用サービスの入館者数、貸出冊数から抽出して再掲

■研究活動

1 研究活動の状況

各教員の研究業績等については、学校教育法施行規則の規定に基づきホームページ上で公開している。また、研究を支援するために外部資金獲得に向けた各種学会、協会及び民間企業等の研究助成に関する情報収集を行い、関係学部・学科等に提供することにより研究活動の促進に努めている。

2 科学研究費助成事業の採択

大学においては、平成 28 年度は、応募件数 52 件、新規採択件数 12 件であり、継続分と併せた採択件数は、38 件（43,030 千円）であった。新規採択率は 23%で、

大学専任教員（助手除く）（154 名）に対する採択率は 24.7%であった。今後も応募件数及び採択件数の増加を目指し、学内個別相談会の開催及び採択者の応募書類の公開など、支援の一層の強化を図ることとする。

短期大学においては、科研費申請の増加、研究の活性化を目的に、採択に向けて啓蒙活動を活発に実施し、挑戦的萌芽研究 1 件、基盤研究 C3 件の合計 4 件の申請のうち、新たに 1 件が採択され、継続分と併せた採択件数は 2 件となった。今後も申請件数の増加を図る取り組みを展開する。

3 産学連携活動の取り組み

企業等との共同研究や受託研究及び企業等との連携による商品開発等を積極的に推進している。

【科学研究費助成事業採択状況（大学）】

（単位：千円）

研究種目	平成 27 年度				平成 28 年度			
	件数	直接経費	間接経費	合計	件数	直接経費	間接経費	合計
基盤研究（B）	1	2,400	720	3,120	1	2,600	780	3,380
基盤研究（C）	25	22,700	6,810	29,510	29	23,800	7,140	30,940
挑戦的萌芽研究	1	500	150	650	4	2,900	870	3,770
研究活動スタート支援	3	2,600	780	3,380	4	3,800	1,140	4,940
学術図書	1	5,800	—	5,800	0	0	0	0
合計	31	34,000	8,460	42,460	38	33,100	9,930	43,030

【企業等との共同研究や受託研究等の状況（大学）】

年 度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
共同研究・受託研究（継続含む）	9 件	7 件	5 件
商品化・サービスの開始など事業化への貢献	3 件	4 件	4 件
技術相談受け入れ件数	2 件	0 件	0 件
特許の申請状況	0 件	0 件	0 件

【商品開発等（大学）】

	企業名	内 容
1	株式会社コープフーズ	弁当共同開発
2	ウオクニ株式会社	弁当共同開発 ※短期大学食物栄養学科も参加
3	大阪山陽タクシー株式会社	メニュー共同開発
4	西洋フード・コンパスグループ株式会社	メニュー共同開発

4 その他外部資金の採択状況

件数	交付元	研究課題名
1	平成 28 年度研究助成金 （公益財団法人伊藤記念財団）	「畜産物由来サプリメントの新規評価法の開発」
2	平成 28 年豆類振興事業助成金 （公益財団法人日本豆類協会）	「雑豆微粉末およびその含有成分がパンの物性・食味性に及ぼす影響 —高機能性パンの開発を目指して—」
3	平成 28 年度研究助成金 （公益財団法人不二たん白質研究振興財団）	「大豆製品の好き嫌い改善と摂取頻度向上のための方法の開発 —家庭への波及効果に着目して—」

5 古典芸能研究センター

古典芸能研究センターは、古典芸能に関する調査・研究ならびに社会への学術的貢献を目的として開設され、古典芸能や民俗芸能に関する書籍・資料を幅広く備えた研究施設である。学内・学外、学生・社会人を問わず利用可能であり、所蔵資料の公開を中心に展示や特別講座、シンポジウム、講演会等を開催している。平成 28 年度は、古典芸能研究センター開設 15 周年の節目であったため、明治・大正・昭和と大阪の劇壇・文壇で活躍した食満南北の未刊原稿『大阪藝談』（センター所蔵資料）の刊行を中心として、記念講演会や展示

会の開催などの周年記念事業を行った。

また、4 年目を迎えた研究プロジェクト「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」では、公開研究会「伝統と現代をつなぐものー民俗芸能と古典芸能ー」を開催した。

さらに、平成 27 年度の事業成果として、古典芸能研究センター叢書 3『説経一人は神仏に何を託そうとするのかー』を公刊した。以上に加え、国内美術館への所蔵資料出品や展示協力、BS・地上デジタル放送用テレビ番組への資料提供や撮影協力等、様々な手段による学外発信を行った。

■地域連携活動・社会貢献活動

1 社会貢献の概要

平成 28 年度は、地域連携の組織的・総合的な推進及び円滑な運営を目的とし、地域連携推進センターを新設した。

2 須磨区との地域連携

大学（須磨キャンパス）の地元である須磨区との包括連携締結（2006 年 3 月）や、大学に隣接する神戸市立須磨離宮公園との「キャンパス・パーク連携（CP 連携）協定（2006 年 12 月）」に基づき、多数の学生・教職員が行政機関、地域団体等が主催する催しへの参画をはじめ、「まちづくり」、「学習支援」、「人づくり」等に積極的に取り組んだ。須磨離宮公園とは、定例会議（月 1 回）を開催し、1 年を通じて様々な催しに学生が参加している。

また、平成 26 年度より須磨区主催の「地域連携事業 4 大学と須磨区の情報交換会」において、須磨区と連携する 3 大学「神戸大学医学部保健学科（須磨区）」「神戸市立看護大学（西区）」「流通科学大学（西区）」と意見交換を行うとともに、須磨区主催の「総合行政調整会議」に加わり、須磨区との連携をより強化している。さらにキャンパスを開放し、図書館の利用、高齢者への給食サービス、子育て支援事業、公開市民講座及び健康講座等を実施している。

(1) 消防団協力大学

神戸市消防局より消防団協力事業所として認定（平成 22 年 10 月）され、神戸市で最初の「消防団協力大学」として須磨消防署を拠点に学生消防団員が地域の防火・防災活動で活躍している。

(2) ふれあい給食

地域の NPO 法人「輝たかくら台」と「神戸女子大学プロジェクトコスモス」が協働し、高倉台地域に住む 65 歳以上の一人暮らしの高齢者を対象に月 1 回（年 10 回）学生食堂給食サービスを実施している。学生、教職員、給食会社などが連携して取り組んでいる。

(3) ローズ・フェスタ

平成 28 年度で 10 回目の節目を迎えた本学主催の音楽祭「ローズ・フェスタ」（5 月）では、各クラブが日頃の練習の成果を発表するとともに、企画・運営等に、学生が積極的に取り組んだ。

(4) 神戸マラソン

須磨区内の沿道において甲冑姿で声援するボランティア活動を実施し、大会を盛り上げた。

(5) プレイフル・サンドアート

須磨海岸における地域住民主催の防災イベント「浜キャン SUMA」において、コープこうべとの協力で学生がダンボールアート等に取り組んだ。

その他、学科及び研究分野等の特長を活かした継続性のある地域連携活動を以下のとおり行い、活動内容について、ホームページ等で広く発信した。

【須磨キャンパス】

- ・高倉台魅力発信プロジェクト「すまう #takakuradai」発行等
- ・親子通所センター（愛称：子育て広場“あい・あい”）
- ・算数・数学クリニック（児童対象）
- ・須磨区の花であるコスモスの植付け計画（須磨区主催）
- ・障がい者施設「社会福祉法人ホーリーツリー西部」における継続的ボランティア活動 等

【PI キャンパス】

- ・健康神戸 21 推進事業
- ・ADL 体力アップ講座（高齢者対象）
- ・きずな DAY（子育て支援事業）
- ※神戸女子短期大学・神女中山手保育園の連携
- ・お父さんと子供の料理教室 等



（ふれあい給食）



（ローズ・フェスタ）

3 中央区との地域連携

ポートアイランドキャンパスにおいては、平成 20 年 1 月に神戸市中央区と地域連携協定を締結しており、同区主催の行事や福祉活動への参画、食育・幼児教育や福祉等に関する大学の教育・研究資源を活用した市民への情報提供等を行っている。

平成 28 年度には、「こうべ海の盆踊り」、「中央区長との座談会」、神戸市中央区社会福祉協議会と連携した「ハートフルフェスタ 2016」（学生 47 名）に加え、神戸マラソンボランティア（学生 170 名）等に参加し、学生の実践活動への意識が高まりつつある。今後も学生の参加を積極的に支援するとともに、地域社会とともに諸活動の活性化を推進していく。

4 ポートアイランド 4 大学の連携

ポートアイランドキャンパスでは、平成 19 年度に近接の神戸学院大学、兵庫医療大学、神戸夙川学院大学と連携協定を締結して以降、4 大学の教育・研究の交流及びポートアイランド地域への貢献を目的とした共同事業活動を展開している。

具体的には 6 つの部会（①入試広報部会、②図書館部会、③学生部会、④教務部会、⑤エクステンション部会、⑥社会貢献（生涯学習）部会）が設けられ、部会毎に情報交換をしながら協力を図っている。

本事業は、文部科学省の戦略的大学連携事業として位置づけられており、その 1 つである安全・安心・健康のための総合プログラムを地域で展開するなかで、本学が取り組んだ主な事業として、「高齢者のための ADL 体力アップ教室」（年 20 回）及び「親子保育くじらくらぶ」（年 11 回）がある。平成 28 年度は連携協定を締結後、10 年目の節目を迎え、連携・協力事項を再確認するとともに、今後に向けてのより具体的な連携・協力事項として以下の 7 項目を掲げ、新たに「神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、夙川学院短期大学及び兵庫医療大学の連携協力に関する協定書」を締結（平成 29 年 3 月）するに至っている。

[連携・協力事項]

- (1) 教職員の研修（FD・SD 研修会、講演会等）の協同実施に関する事
- (2) 学内施設及び設備の共同利用に関する事
- (3) 教育プログラム、教材等の開発、利用等に関する事
- (4) 教職員の人事交流に関する事
- (5) 学生の派遣及び受入れに関する事
- (6) 地域安全まちづくり活動の推進に関する事
- (7) その他協定大学が必要と認める事項

5 ボランティア活動

学生は、地域の人々との交わりやボランティア活動を通して、地域社会に生きることを体験的に学び、自立心・対話力・創造性を育む場としている。東日本大震災及び熊本地震災害被災地での復興ボランティア活動への参加をはじめ、地域の抱える課題が多様化する現在、本学に対する社会貢献活動の要請は年々増加しており、学生のボランティア活動の要請が増加している。

平成 28 年度から「地域連携推進センター」を開設し、学生及び教職員の円滑な地域連携活動を推進するとともに、教育と学術研究成果の地域への還元、地域社会とのつながりを深める活動を支援するための体制整備により一層積極的に取り組んだ。

須磨キャンパスにおいては、地域連携推進事務室が受理した地域連携活動への参加要請が 164 件あった。そのうち学生に案内したボランティア活動等は 105 事業におよび、延べ 489 名の学生が参加した。その他、教育委員会との連携により須磨区を中心に市内の小中学校で学生が授業のサポートを行うスクールサポーター制度や、公立幼稚園、私立幼稚園、認可保育所等で多数の学生が教育や保育関係の活動に参加している。また、ポートアイランドキャンパスにおいても、前述の中央区、ポートアイランド 4 大学連携事業に係るボランティア活動のほか、保育ボランティア、神戸市成人式、交通フェスティバル、神戸空港イベント等に参加し、参加人数は年々増加している。

6 公開市民講座の開催

地域とのコミュニケーションを目指して昭和 56 年度より開講している公開市民講座は、平成 28 年度からは春季（須磨）、秋季（PI）の 2 期 2 会場で「健康のレシピ」をテーマに開催した。また「爽やか健康講座」（全 10 回）には地域の高齢者等が多数参加した。

7 オープンカレッジの開講

神戸女子大学教育センター（三宮キャンパス）では、広く地域の人々を対象としてオープンカレッジを開講している。講座の内容は、歴史・教養・健康・語学、古典芸能研究センターとの共同企画における特別講座など多岐にわたり、受講人数は延べ 2,534 名と好調に推移している。

■学生支援活動

1 奨学金の採択状況

本学では日本学生支援機構の奨学金（貸与）をはじめ、学園独自の奨学制度や関連団体からの奨学金（給付）等により、概ね学生の 2 名に 1 名が奨学金を利用している状況にある。奨学金制度の採用者数は以下のとおりであ

り、奨学金の受給を前提に大学へ進学する者が多い。

平成 28 年度は熊本地震等の被災者支援措置として、授業料等免除制度を拡大適用したところであるが、今後も個々の学生の状況に応じて適切な支援に努めていく。

(1) 日本学生支援機構奨学金

採用種別奨学生（新規採用）数の状況

【大学】

（単位：名）

種別	第一種	第二種	平成 28 年度	平成 27 年度
予約採用	126	201	327	306
定期採用	50	67	117	126
追加採用	18	0	18	0
臨時採用	0	1	1	5
緊急採用・応急採用	0	0	0	0
今年度採用者合計	194	269	463	437

※第 1 種（無利子）第 2 種（有利子）

【短期大学】

（単位：名）

種別	第一種	第二種	平成 28 年度	平成 27 年度
予約採用	42	83	125	175
定期採用	11	10	21	30
追加採用	2	3	5	2
臨時採用	0	2	2	2
緊急採用・応急採用	0	0	0	1
今年度採用者数合計	55	98	153	210

(2) 行吉学園奨学制度

（単位：名）

区分		奨励金授与	授業料等免除	大学院奨学金
大 学	1 年次生	—	1	—
	2 年次生	28	4	—
	3 年次生	25	1	—
	4 年次生	25	1	—
大学院	修士・博士	—	—	15
	博士後期	—	—	1
小 計		78	7	16
短期大学	1 年次生	—	—	—
	2 年次生	21	2	—
小 計		21	2	—
合 計		99	9	16

※奨励金授与制度：前年の成績優秀者を学科から推薦し表彰するもの。奨励金として 10 万円が授与

※授業料等免除制度：在学中の家計急変による修学継続援助。授業料教育施設充実費の半額を免除

※大学院奨学金：（博士前期課程）授業料の半額給付、（後期課程）授業料全額給付

(3) 大学・短期大学関連団体の奨学金

No.	奨学名称	区分	金額	年次	人数
1	神戸女子大学教育後援会 育英奨学生奨学金	給付（年額）	200,000 円	3 年次	1 名
				2 年次	2 名
				1 年次	2 名
2	青山会（大学同窓会）		500,000 円	4 年次	4 名
3	かなめ会（短期大学同窓会）		授業料等の半額	該当なし	

※神戸女子大学同窓会青山会の給付額については、給付者の在籍する学科により給付額が異なる。

2 学生表彰の状況

学生表彰制度に基づく平成 28 年度の表彰者は下表のとおりである。

【大学】

表彰区分		個人	団体
1	学業優秀で品行方正な全学生の模範となる者(学部生)	9名	—
2	課外活動において特に優秀な成果を挙げた者	1名	3団体
3	社会貢献活動において社会的に高い評価を受けた者	—	3団体
4	公的機関から表彰された者	5名	2団体
5	学内外の活動において他の模範となる行為があった者	3名	4団体
6	その他 1～5 に準ずると認められた者	4名	—
7	大学院生で特に顕著な学問業績を挙げた者	—	—

【短期大学】

表彰区分		個人	団体
1	学業優秀で品行方正な全学生の模範となる者	3名	—
2	課外活動において特に優秀な成果を挙げた者	2名	1団体
3	学内外の活動において他の模範となる行為があった者	—	3団体

3 学生寮等の利用状況

学生寮の平成 28 年度利用状況は下表のとおりである。寮生活においては、寮生間の交流を深めるための様々な行事が実施されており、日常の生活支援とともに生活の充実に向けた取り組みを展開している。

また、ポートアイランド内の学生専用マンション(防犯カメラ、オートロック、カードキー等最新設備

完備)に本学専用フロアを設置しており、平成 28 年度は 20 名余りの学生が入居している。キャンパスの近隣に位置しており、通学の利便性が高く、防犯設備等の面からも一定の需要がある。また、六甲アイランドにある女子学生専用マンション(送迎バス付)にも約 100 名の学生が入居している。

【寮利用状況】

区分	年度	定員	入寮者	残数	入居率
行幸寮	平成 28 年度	108	90	18	83.3%
	平成 27 年度	108	107	1	99.1%
	平成 26 年度	108	103	5	95.4%
天神寮	平成 28 年度	70	41	29	58.6%
	平成 27 年度	70	40	30	57.1%
	平成 26 年度	70	43	27	61.4%
計	平成 28 年度	178	131	47	73.6%
	平成 27 年度	178	147	31	82.6%
	平成 26 年度	178	146	32	82.0%

4 健康増進への取り組み

(1) 健康調査・個別相談

健康な学生生活を送ることができるよう、入学時に健康調査により感染症の罹患・予防接種状況を把握し、必要な学生を対象に個別相談を実施している。

(2) 応急処置・相談件数

ケガや急病時の応急処置、心身の悩みに関する相談、医療機関受診調整等、保健室の利用状況は以下のとおりである。PI キャンパス保健室の利用件数の増加は、看護学部生の増加に加え、4 月から須磨キャンパスと同様、精神保健相談(こころの相談)を開設し、相談体制が充実したことが主な要因である。

(3) 心身のサポート体制の充実

学生が心理的な悩みや問題を相談できる学生相談室では、カウンセラー(臨床心理士)を配置して学生からの相談に常時対応しており、保健室と連携して心身のサポート体制を充実させている。

(4) 健康づくり啓発強化

今年度は毎月テーマを選定し KISS システム及び掲示等により健康情報を発信し、感染症予防や健康づくりの啓発強化を図った。須磨キャンパスにおいて防災訓練に併せて実施している AED 訓練も平成 26 年度から恒例の取り組みとなっている。

【保健室の利用状況（教職員除く）】

(単位：件)

	平成 26 年度			平成 27 年度			平成 28 年度		
	大学		短大	大学		短大	大学		短大
	須磨	PI		須磨	PI		須磨	PI	
学生利用	1,873	493	1,127	1,535	668	1,040	1,550	858	974
	2,366			2,203			2,408		
学校医による健康相談	13			15			12		
嘱託医による精神保健相談	18			18			31		

【学生相談室の利用状況】

(単位：名/実数)

	平成 26 年度			平成 27 年度			平成 28 年度		
	大学		短大	大学		短大	大学		短大
	須磨	PI		須磨	PI		須磨	PI	
相談実人数	49	10	11	38	13	11	36	10	7
	59			51			46		
相談内容別実人数	学 業	3		2		0		0	
	進 路	3		0		4		0	
	心 理	52		9		47		10	
	生 活	1		0		0		1	
	その他	0		0		0		0	

5 教職支援

教職支援センターにおける活動は以下のとおりである。

- ・全教職員対象「教職課程研修会」の開催（通算第 5 回）
- ・教員養成制度改革への取り組み等を行っている。

【大学】

「神戸女子大学教職支援センター」は、全学の教職課程運営の拠点として、教職協働で学生支援と教職課程の運営を行い、教職支援センター構成員と運営委員を中心に、教員が主体となって指導している。

教育職員免許法の改正に伴う教職課程再課程認定申請に向けた具体的な準備として、教職課程を置いている全学科・専攻（16学科・専攻）に対し、設置理念、教員養成に対する理念・構想、及び新教職課程の完成年度（平成34年度）までの教員計画の作成を依頼した。

(1) 平成 28 年度の主な取り組み

- ・教員免許状更新講習の継続開設（340名受講）
- ・「教職卒業生ネットワーク」の活用促進

(2) 教員採用状況

公立学校等の教員・保育士採用試験合格者は 72 名（対前年△29）であった。今年度は、教職課程履修者が例年より減少したこと、また、近畿地区の採用試験日程の変更により、関東地区を受験する学生が大幅に減少したことが合格者数に影響したと考えられる。

兵庫県の合格者は 8 名（対前年△4）、大阪府・大阪市・堺市・豊能地区の合格者が 12 名（対前年△9）となった。また、関東地域（東京都、横浜市等）には 12 名（対前年△8）が合格した。神戸市小学校に 5 年ぶりに 2 名、中学校に 1 名が合格し、香川県 4 名、愛媛県 1 名、高知県 1 名と、四国地区の合格者が増加した。

【大学 公立学校教員採用試験の合格者数（新規卒業者）】

(単位：名)

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
幼稚園・保育所等	29	22	33	31	26
小学校	33	49	34	57	39
中学校	2	1	6	7	4
高等学校			1	2	3
特別支援学校	1				
栄養教諭	1		1	4	
教員計	66	72	75	101	72

*合格者数は延べ数

【大学 教員就職者数の推移（新規卒業者）】

（単位：名）

	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	正規	臨時								
幼稚園教諭	27	6	34	6	16	8	23	2	12	3
小学校教諭	34	33	39	25	26	15	43	15	32	18
中学校教諭	2	6	1	9	5	11	5	6	4	7
高等学校教諭	0	8	0	9	1	9	2	2	3	7
特別支援学校	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0
栄養教諭	1	1	0	1	1	1	3	0	0	0
教員計	65	54	74	51	49	46	76	25	51	35
保育士	46	5	46	6	58	3	52	1	45	3

* 「保育士」就職者に「こども園」就職者も含む。

【短期大学】

教職を目指す学生に対し、教育実習、保育実習、教員採用試験、保育士採用試験等の支援を行っている。

(2) 教職・保育職の就職

公立学校園合格は、中学校教員（家庭科）1名、幼稚園2名、こども園1名、保育職3名であった。

(1) 平成 28 年度の主な取り組み

専門指導員を配置し、教員採用・保育士採用に関する面接指導、履歴書の添削指導等を実施した。

【短期大学 教員・保育士就職者数の推移（新規卒業者）】

（単位：名）

	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時
中学校							1	
公立保育所	2	3	2		3		2	1
私立保育所	75	4	70	6	41	3	47	3
公立幼稚園	1		1		3	1	1	1
私立幼稚園	20		20	4	12		14	
公立こども園					1			1
私立こども園					19	3	32	1
施設（保育士資格）	4				1		1	
児童館、学童								2
計	102	7	93	10	80	7	98	9

6 就職支援

キャリアサポートセンターにおける活動は以下のとおりである。

【大学】

(1) 就職状況

平成 29 年 3 月卒業生の求人倍率は 1.74 倍となり、対前年度プラス 0.01 ポイント上昇した。本学の就職率は 98.0%（前年度比+1.1 ポイント）、進路決定率では 91.2%（前年度比+2.3 ポイント）と好調に推移している。

平成 28 年度は特に企業との関係強化・企業の推薦枠の拡大に努めた。学生と企業との接点を増やす施策として開催した学内企業説明会（3 年次生対

象）には多数の企業（地方自治体含む）を招き、学生の就職に対する意識高揚を図るとともに、4 年次生を対象とした合同・単独企業説明会を実施するなど、就職に向けたきめ細やかな支援を充実させた。※別添資料「神戸女子大学卒業生進路状況（平成 29 年 3 月卒）」参照

(2) 資格取得講座の開講状況

学生の多様なニーズに応える講座を開講し、エンプロイアビリティ（就業力）を高める支援を積極的に実施しており、MOS 検定試験講座（須磨キャンパス）では、受講者数 292 名（合格率 100%）であった。

【短期大学】**(1) 就職状況**

昨年度に引き続き経済状況の回復傾向が見られ、民間企業からの求人受付数は増加した。学生が希望する進路を確保することを重点目標にして取り組み、就職率は 98.1%（前年度比+1.0 ポイント）、進路決定率も 98.1%（前年度比+1.0 ポイント）と好調に推移している。

また、大学・専門学校等への進学者は 34 名であり、昨年度に比べ 9 名増加する結果となった。

各学科の担任教員やゼミ教員との情報交換等の教職協働、学内企業セミナー開催等、今後も企業等との連携やキャリア教育の推進、ハローワークとの連携強化、KISS システムの有効活用等、全方向からの学生支援をきめ細かく積極的に実施していく。※別添資料（「神戸女子短期大学卒業生進路状況（平成 29 年 3 月卒）」参照

(2) 資格取得講座の開講状況

資格取得講座の中でも学生のニーズが高い MOS Word 2010、MOS Excel 2010、秘書検定 2 級対策、医療事務講座を開講し、190 名（大学含む）が受講した。今後も学生のニーズに応じた講座を選定して開設し、学生の就活力の向上につなげていく。

■自己点検・評価への取り組み

大学において、大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審し、「適合」認定を受けた。また、短期大学において、短期大学基準協会の第三者評価を受審し、「適格」認定を受けた。

毎年、「活動計画書」「活動報告書」の作成により組織の通常業務を検証するとともに、各部局間での共通認識等、全学的な見地から目標達成度等の進捗状況を確認している。

自己点検評価において、特に重要視される以下の項目の推進を図っている。

- (1) 大学の理念・目的を表す三つの標語「自立心・対話力・創造性」を周知徹底するため、オリエンテーション等で説明するほか、学生へ配付する刊行物に記載することにより意識付けを行っている。
- (2) 「教育研究上の目的及び三つの方針（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）」について、学生への配付物やホームページに掲載することにより広く周知を図っている。

■学生募集

1 平成 29 年度入試の状況

(上段:平成29年度・下段:平成28年度)

学 科	全 入 試 状 況											
	募集人員	志願者数	前年比	受験者数	前年比	合格者数	前年比	合格倍率	手続者数	辞退者数	入学者数	定員充足率
			(%)		(%)		(%)					(%)
日 文	60	460	130.7%	458	132.0%	165	117.9%	2.8	89	15	74	123.3%
	60	352		347		140		2.5	77	18	59	98.3%
英 米	60	344	108.5%	340	108.3%	128	100.8%	2.7	67	6	61	101.7%
	60	317		314		127		2.5	61	12	49	81.7%
国 際	40	344	144.5%	342	143.7%	105	123.5%	3.3	60	5	55	137.5%
	40	238		238		85		2.8	48	6	42	105.0%
史 学	60	283	102.5%	281	102.2%	112	86.2%	2.5	71	11	60	100.0%
	60	276		275		130		2.1	65	13	52	86.7%
教 育	165	1,182	113.8%	1,178	114.1%	354	114.6%	3.3	223	42	181	109.7%
	165	1,039		1,032		309		3.3	197	41	156	94.5%
家 政	80	398	97.5%	394	97.3%	170	101.2%	2.3	94	9	85	106.3%
	80	408		405		168		2.4	110	16	94	117.5%
管 栄	150	1,616	107.7%	1,605	107.4%	316	111.7%	5.1	195	28	167	111.3%
	140	1,500		1,495		283		5.3	197	44	153	109.3%
福 祉	80	372	137.8%	369	139.2%	158	139.8%	2.3	86	10	76	95.0%
	80	270		265		113		2.3	72	14	58	72.5%
栄 養	80	541	85.5%	541	85.7%	142	135.2%	3.8	100	13	87	108.8%
	60	633		631		105		6.0	71	12	59	98.3%
看 護	80	1,593	129.0%	1,588	131.0%	200	95.7%	7.9	112	21	91	113.8%
	80	1,235		1,212		209		5.8	114	22	92	115.0%
大学合計	855	7,133	113.8%	7,096	114.2%	1,850	110.8%	3.8	1,097	160	937	109.6%
	825	6,268		6,214		1,669		3.7	1,012	198	814	98.7%
(前年との差異)		865		882		181			85	-38	123	
総 生	120	220	97.8%	219	98.2%	130	101.6%	1.7	89	2	87	72.5%
	120	225		223		128		1.7	98	2	96	80.0%
食 栄	120	280	98.2%	280	99.6%	161	110.3%	1.7	99	6	93	77.5%
	140	285		281		146		1.9	104	7	97	69.3%
幼 教	100	257	80.3%	255	80.7%	141	93.4%	1.8	97	3	94	94.0%
	100	320		316		151		2.1	102	7	95	95.0%
短大合計	340	757	91.2%	754	92.0%	432	101.6%	1.7	285	11	274	80.6%
	360	830		820		425		1.9	304	16	288	80.0%
(前年との差異)		-73		-66		7			-19	-5	-14	
総合計	1,195	7,890	111.2%	7,850	111.6%	2,282	109.0%	3.4	1,382	171	1,211	101.3%
	1,185	7,098		7,034		2,094		3.4	1,316	214	1,102	93.0%
(前年との差異)		792		816		188			66	-43	109	

・上記志願者数等の人数には第二志望を含む。

入 学 学 生 数

設 置	種 別	入 学 者 数 等			
		28年度	29年度		昨年比
		入学者	合格者数	入学 予定者数	入学 (予定)者数
大 学	学 部	814	1,850	937	123
	専攻科	0	2	2	2
	大学院 博 前	15	9	8	-7
	大学院 博 後	1	4	4	3
	編 入 学園内編入	13	14	14	1
	編 入 一般編入	8	9	8	0
	計	851	1,888	973	122
短 大	計	288	432	274	-14
合 計		1,139	2,320	1,247	108

2 学生募集の状況

平成 29 年度入試は、7 月の学園内編入学試験・大学院入試から始まり、AO 入試、推薦前期・後期、大学入試センター試験、一般前期・後期の入試日程まで 3 月 3 日に全ての日程で実施した。

【志願者数】

大学では 7,133 名（前年度比+13.8%）、短期大学では 757 名で（前年度比△8.8%）、合計 7,890 名（前年度比 11.2%（792 名）増となった。大学では、平成 29 年 4 月で開設 3 年目となる看護学科が引き続き好調に推移し、1,593 名で 29.0%（358 名）増となり、一部を除き全ての学科で増加した。短期大学では、総合生活学科が 220 名で昨年比 2.2%（5 名）減、食物栄養学科が 280 名で昨年比 1.8%（5 名）減、幼児教育学科が 257 名で前年度比 19.7%（63 名）減となった。

また、推薦・一般別では、ファミリー入試を含む推薦入試で 2,899 名となり、昨年比 1.7%（45 名）増、一般入試では 3,554 名で、昨年比 5.2%（194 名）減、さらにセンター利用入試では検定料を改定したことから 1,283 名で昨年比 232.5%（897 名）増となり、AO 入試・社会人入試を含めると合計 7,890 名で昨年比 11.2%（792 名）増加となった。

【合格者数】

大学 1,850 名（昨年比+110.8%）、短期大学 432 名（昨年比+101.6%）、合計では 2,282 名（昨年比+109.0%）となり 188 名の増となった。

【入学者数】

大学が 937 名（入学定員比 109.6%）、短期大学が 274 名（入学定員比 80.6%）、合計 1,211 名（入学定員比 101.3%）となった。また、学校教育学専攻科 2 名、大学院 12 名、編入学で 22 名の入学者があり、大学・短期大学の合計は、昨年度より 108 名増の 1,247 名となった。

3 受験生確保の方策

広報活動については、2018 年問題を間近に控え、18 歳人口の減少が見込まれる状況が続いているが、平成

28 年度も学園の社会的評価を高めることを主眼に、積極的に広報活動を展開してきた。

テレビ CM を始め、受験生応援サイト「スマイルナビ」、受験生向け制作物（大学案内、冊子スマイルナビ 発行回数：年 5→6 回）を充実させた。6 月～9 月の間にオープンキャンパスを 6 日間開催し、平成 29 年 3 月 25 日（土）には新 3・2 年生を対象に追加開催した。

短期大学の定員充足を目的に受験者層の拡大を目指してオープンキャンパスとは別に、短期大学独自の「授業体験 DAY（平成 28 年 5 月 7 日（土）」を実施し、17 名が参加した。

また、夏期には本学教員の協力を得て、兵庫県・大阪府に加え、北陸・近畿・中四国の高校訪問を実施した。さらに、各高校での進学ガイダンス、及び各地で開催され高校生・保護者が数多く訪れる進学ガイダンスに積極的に参加し、高校生と直接面談する機会を増やすことに努めた。今後も広報戦略の効果の検証を行ったうえで、本学の魅力を最大限アピールするなど、より積極的な広報活動を展開していく。

【新たな取り組み】

①英語の外部試験（GTEC）の導入

- ・公募制推薦入試+GTEC 方式
- ・一般入試前期 D+GTEC 方式

②入試検定料の割引制度の導入

- ・「一般入試前期」+「センター利用入試前期」
- ・「一般入試後期」+「センター利用入試後期」

上記いずれかの方式で同時出願する場合には、センター利用入試の検定料を無料とした。

また、「センター利用入試」で複数学科に出願する場合には、その検定料を 1 出願分で可能とした。

③入学手続の促進

一般入試（前期・後期）当日の在在学生による合格祈願カイロの配布（須磨、PI、大阪会場）、合格者限定祝福ムービーの提供、合格通知の在 student サクセスストーリーの同封等を行った。

■施設整備

1 施設の充実

教育・生活環境の改善への対応は以下のとおりである。

【須磨キャンパス】

(1) 学生生活環境の整備

- ① 図書館照明器具 LED 化更新工事
- ② 第 1、第 2 クラブハウス 2、3 階の床長尺シート、壁クロスの張り替え、及び和室の畳替え
- ③ M 館、D 館前通路の夜間転倒防止用投光器の設置

- ④ 正門に防犯カメラの増設、防犯強化対策の実施
- ⑤ 行幸寮の CCTV 防犯カメラシステムの更新工事
- ⑥ 可燃・資源ゴミ箱の増設

(2) 教育環境の改善

- ① 図書館階段踊り場タイルカーペットの張替え
- ② C107 の床材、クロスの張替
- ③ 体育館シャワールーム(温水真空ヒーター)の更新

- ④ A213 模擬授業室机 64 台の入替
- ⑤ 体育館トレーニング室の照明 LED 化工事
- ⑥ C318 講義室固定机取り替え・床改修工事

(3) その他

- ① A 館エレベーターリニューアル工事
- ② 体育館の外壁改修及び空調機更新工事
- ③ A・B 館の空調機更新工事

【PI キャンパス】

(1) 学生生活環境の整備

- ① 防犯監視システム(防犯カメラ設置)の整備
- ② 粗大ゴミ倉庫設置
- ③ 中庭土間タイル補修

(2) 教育環境の改善

- ① LED 照明化更新 (講義室・実習室・演習室・ホール等)
- ② 学生及び事務部掲示板への LED 照明の設置
- ③ 施設・設備の長期維持に向けた機器の定期更新 (昇降機、空調機、高圧受電ケーブル、防水工事他)
- ④ 図書館地下移動書架の改修
- ⑤ 空調機運転時間及び設定温度の見直し

2 情報処理機器の整備等

ネットワーク機器、情報教育設備の定期的な更新、及び Web による迅速な情報発信等を行っている。

- (1) ネットワークセキュリティ対策機器の更新
- (2) 仮想基盤の整備による使用電力の削減・冷房効率改善の改善
- (3) 証明書発行機サーバの更新
- (4) 須磨 PC 教室の拡大 (A310→F201) 及び機器更新
- (5) 須磨 A310 教室の AV 機器更新
- (6) 須磨 B003 教室へ常設の AV 機器設置
- (7) ホームページのニュース欄への情報掲載
 - ・大学 (601 件/前年比 144 件増)
 - ・短大大学 (183 件/前年比 62 件増)

3 防災への取り組み

【須磨キャンパス】

(1) 災害用食料・物資の備蓄

神戸市からの依頼により、27 年度に引き続き「災害用備蓄食料・物資」の保管場所として施設課倉庫を提供し、期限切れ物資の更新を実施した。また、災害時用の教職員 3,000 名分の飲料水(1 名あたり 1 日 3 リットル) 10 日分を確保した。

(2) 防火・防災総合訓練の実施

学生、教職員とも各自の防災意識を高めるため、須磨消防署協力のもと防火・防災総合訓練を実施した。震度 6 強の地震発生を想定し、緊急地震速報訓練放送、

車椅子・担架を使用した負傷者搬送訓練、AED 使用を想定した心肺蘇生訓練を行った。また、初期消火訓練とした学生消防団を中心に屋内消火栓を使用した放水訓練や、粉末消火器を使用した消火訓練を行った。さらに災害時炊き出し訓練としてお粥を調理するとともに、学内備蓄倉庫に保管のビスケットや缶パン等の非常食を訓練参加者約 200 名に配布した。

【PI キャンパス】

ポーアイ 4 大学総合訓練に参加するとともに、防火防災訓練等の自衛消防訓練を実施した。また、地震対策として、什器類転倒防止の為の固定及びガラス飛散フィルムの張付を実施した。



(防災訓練/須磨キャンパス)

■管理運営

1 常任理事会の開催状況

常任理事会は、法人の日常業務を決定するために設置しており、平成 28 年度は原則として隔週の頻度で 29 回開催した。主な議題としては、大学ガバナンスの強化を進め、学長のリーダーシップの確立及び学長選考の制度化等が協議され、学長候補者選出規程を制定した。その規程に基づき、次期学長候補者を選出し、理事会へ推薦した。

2 入学定員の変更

平成 27 年度に実施した学生定員の検証結果を踏まえ、教育的視点及び経営的視点から、神戸女子大学家政学部管理栄養士養成課程、健康福祉学部健康スポーツ栄養学科、神戸女子短期大学食物栄養学科の入学定員を変更した。

学部・学科等		変更内容	変更時期
神戸女子大学	家政学部 管理栄養士養成課程	【入学定員】140→150名（増員） 【編入学定員】20→10名（減員）	平成 29 年 4 月 入学生より適用
	健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科	【入学定員】60→80名（増員）	
神戸女子短期大学	食物栄養学科	【入学定員】140→120名（減員）	

3 学園広報活動の展開

(1) テレビ放映・新聞等への掲載

マスコミからの直接取材によるテレビ放映や新聞・雑誌への掲載は、多くの教員と学生が活躍した成果であり 82 回（27 年度 51 回）と大幅に増加した。

(2) 学園広報誌「神女広報「CROSSROADS」」

年 2 回発行。「vol.22」では、開学 50 周年を迎えた神戸女子大学設立時に開設された家政学部を、「vol.23」では、大学の役割が期待される地域連携を組織的・総合的に推進し、円滑な運営を行うことを目的に発足した地域連携推進センター特集で採り上げて紹介した。

(3) 毎日新聞連載企画

平成 20 年 10 月に開始された連載企画がポーアイ 4 大学連携として継続中であり、今年度は、大学文学部教員 5 名、短期大学教員 5 名が、研究をベースに最新の社会問題、教育事情について執筆した。

4 教職員表彰の実施

教育・研究の推進、経営の改善等の顕著な業績ならびに永年にわたる学園への貢献を顕彰する教職員表彰式を神戸メリケンパークオリエンタルホテルで開催（平成 28 年 12 月 15 日）し、以下のとおり表彰した。

【教職員表彰】

表彰区分	表彰内容	受賞者
行吉学園 理事長賞	大学（附属幼稚園）を含む、短大、法人本部の教職員で経営・運営事務の改革改善に顕著な業績を挙げた個人・グループに贈られる賞	神戸女子大学 教職支援センター （教授 前田 研史 他関係教職員）
		家政学部管理栄養士養成課程 教授 後藤 昌弘
神戸女子 大学長賞	大学及び附属幼稚園の教員で、教育・研究に顕著な業績を挙げた個人・グループに贈られる賞	家政学部家政学科 教授 山根 千弘 助手 武藤 浩子
神戸女子短期 大学長賞	短期大学の教員で、教育・研究に顕著な業績を挙げた個人・グループに贈られる賞	食物栄養学科 教授 西川 貴子 准教授 本田 まり 助教 下山 亜美

【永年勤続表彰】

表彰区分	受賞者数	表彰区分	受賞者数
勤続 35 年表彰	3 名	勤続 25 年表彰	7 名

5 収益的事業の展開

(1) オープンカレッジ

大学の知的財産の地域社会への還元を目的として、歴史、文学、教育、自然科学、健康等様々な分野で質の高い講座を開講しており、現代社会における生涯学習の場としての役割を担っている。

アカデミックかつ受講者が関心を抱く新講座を増やすなど、地域の方が継続して受講できることに重点をおいている。今年度は、受講者数が 21 名減、収益は 291 千円の減益となったが、ここ数年間受講生数は年間延べ 2,500 名を超えている。

(2) 貸室（教室・体育館等）

試験会場、神戸太極拳協会、各学会・研修会等多数の利用があり、総収入は 3,555 千円（前年比 165 千円増）となった。

(3) 卒業貸衣裳、自販機手数料等

学内に設置する自販機（食堂業者が設置するものを除く）の管理、卒業式用の貸衣裳紹介、自動車教習所の紹介等の収入があった。

6 教育後援会との交流強化

大学と家庭の間の連絡を緊密にし、大学の教育振興に寄与することを目的として設立された教育後援会から、学生に対する各種セミナーの実施や資格取得補助、育英奨学金制度等、学生生活の充実に向けた多くの支援を得ている。

後援会の組織運営や各事業の実施については、後援会事務局と大学教職員との協力関係により運営されており、引き続き、後援会の事業推進に向け連携を強化するとともに、情報交換の場や交流の機会を通じて相互の信頼を深めつつ、より良好な関係を維持していく。

【学生支援事業】

- ・学生対象セミナー（メイクアップ講座・テーブルマナー講座）
- ・キャリア支援補助（資格取得補助）
- ・育英奨学金の給付
- ・大学祭、卒業祝賀会等の補助
- ・記念品の贈呈

【保証人支援事業】

- ・教育懇談会（本学会場・地方会場）
- ・キャリア講演会（保証人対象就職セミナー）
- ・キャンパス見学ツアーの開催
- ・会報誌の発行

II-2 神戸女子大学附属高倉台幼稚園

1 園児数

（平成 28 年 5 月 1 日現在）

区分	クラス	在園児	入園児	合計
3才児	3	—	57名	57名
4才児	3	58名	7名	65名
5才児	3	74名	0名	74名
合計	9	132名	64名	196名

2 子育て支援

(1) にこにこクラブ

未就園児の親子を対象として、下記の主旨のもと毎週金曜日に実施しており、平成 28 年度は 59 回実施した。

- ①幼稚園の生活に向けて、安定した母子分離を図る。
- ②幼児、保護者の交流を深め、情報交換の場とする。

(2) わくわく幼稚園（兵庫県補助対象事業）

幼稚園で保育者の指導のもとに楽しく遊び、在宅幼児を小学校教育へ円滑に移行させるため、在園児と同等の専門的な幼児教育を計画的に実施した。

【実施回数】10 回 【参加人数】親子平均 10 組

(3) みんなの幼稚園（神戸市私立幼稚園連盟補助対象事業）

未就園児と保護者を対象に幼稚園教育を体験するこ

とにより交流を深め、安定した家族関係をつくり、豊かな人間性を育むことを目的として実施した。

- ・未就園児親子登園日（59 回）・園庭・園舎開放（29 回）
- ・教育相談（86 回） ・母親教室（6 回）

(4) 園庭開放

第 1・第 3 水曜日（13:30～15:30）、地域の親子を対象に園庭を開放している。

3 地域とのかかわり

園児が地域行事に参加し、地域の方々と触れ合うことにより、様々な人と関わる力を身につけている。

- (1) シルバーカレッジの昔あそび研究会との交流
- (2) 高倉台ふるさとまつりへの参加
- (3) 高倉台一人暮らしの方とのクリスマス会への参加
- (4) トライやるウィークの中学生受け入れ
- (5) 小学校との連携
- (6) 「消防フェスタ（地域防災学習）」への参加

4 施設の充実

- (1) 遊戯室関連工事の実施
- (2) 電灯・誘導灯交換工事の実施
- (3) 看板・フェンスの塗替工事の実施

■神戸女子大学卒業生進路状況(平成29年3月卒)

	卒業生数	就職希望者数	就職希望率	就職者数	未内定者数	就職率(%)	進学者数	進路決定者数	進路決定率(%)	就職以外の進路者							計	
										大学院進学者	大学専攻科進学	各種学校進学	各種学校進学希望者	公務員再挑戦	公立教員再挑戦	家事従事者		その他
日本語日本文学科	67	61	91.0%	58	3	95.1%	0	58	86.6%	0	0	0	0	1	0	0	5	6
英語英米文学科	59	53	89.8%	52	1	98.1%	0	52	88.1%	0	0	0	0	0	0	1	5	6
神戸国際教養学科	50	39	78.0%	39	0	100.0%	1	40	80.0%	0	0	1	0	0	0	0	10	11
史学科	66	52	78.8%	49	3	94.2%	3	52	78.8%	3	0	0	0	0	1	0	10	14
教育学科	183	169	92.3%	168	1	99.4%	4	172	94.0%	2	2	0	0	0	6	1	3	14
文学部計	425	374	88.0%	366	8	97.9%	8	374	88.0%	5	2	1	0	1	7	2	33	51
家政学科	96	89	92.7%	85	4	95.5%	1	86	89.6%	1	0	0	0	1	0	1	4	7
管理栄養士養成課程	150	140	93.3%	138	2	98.6%	3	141	94.0%	2	0	1	0	0	0	0	7	10
家政学部計	246	229	93.1%	223	6	97.4%	4	227	92.3%	3	0	1	0	1	0	1	11	17
社会福祉学科	76	75	98.7%	75	0	100.0%	0	75	98.7%	0	0	0	0	0	0	0	1	1
健康スポーツ栄養学科	75	73	97.3%	72	1	98.6%	2	74	98.7%	2	0	0	0	0	0	0	0	2
健康福祉学部計	151	148	98.0%	147	1	99.3%	2	149	98.7%	2	0	0	0	0	0	0	1	3
全学部計	822	751	91.4%	736	15	98.0%	14	750	91.2%	10	2	2	0	2	7	3	45	71

*卒業生数:平成28年9月30日に卒業した者も含む。

*その他:アンケート未提出者及び就職・進学・家事従事等希望なし、公務員・教員再受験希望なし、留学希望者等

■神戸女子短期大学卒業生進路状況（平成29年3月卒）

	卒業者数	就職希望者数	就職希望率（％）	内定者数	就職率（％）	就職以外の進路							その他	進路決定者数	進路決定率	
						進学				それ以外						
						大学編入	短大・科目等履修生	専門学校進学	留学	一時的な仕事に就いた者	進学希望	公務員・教員再挑戦				家事従事者
総合生活学科	122	111	91.0%	106	95.5%	3	0	0	1	5	0	0	2	0	117	95.9%
食物栄養学科	134	100	74.6%	99	99.0%	19	1	6	1	3	0	1	2	1	132	98.5%
幼児教育学科	112	107	95.5%	107	100.0%	3	0	0	0	2	0	0	0	0	112	100.0%
合計	368	318	86.4%	312	98.1%	25	1	6	2	10	0	1	4	1	361	98.1%

*卒業者数には、平成28年9月30日に卒業したものも含む。

*その他：アンケート未提出者及び進学・就職希望なし、成績証明書の発行履歴等



「自立心・対話力・創造性」
を培う教育を目指しています

学校法人行吉学園

〒650-0046

神戸市中央区港島中町4丁目7-2

Tel :078-303-4712

Fax:078-303-4713